
とある戦場にて、トラブルが発生しました

熊海苔

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある戦場にて、トラブルが発生しますた

【コード】

N8517P

【作者名】

熊海苔

【あらすじ】

とある国境で敵兵と戦っていた男は戦闘の途中で生死の境を彷徨うが？

(前書き)

ふと思いついて書いたのでおもしろくなかったらすいませんm)
・
m

ここは戦場。時は2158年、場所は国境のジャングル、俺達は傭兵達と戦っていた。

俺はデザートイーグル、M16を装備し木々を掻き分けながら敵を探す。

「おい、リュウ。ここから500m先に熱源がある」

「わかった。ここから二手に分かれてヤツらを挟み打ちする」

「ああ」

「行くぞ！」

雨が降るジャングルの中、ガイルからの無線が来るのを息を潜めて待つ。

敵兵の声が大きくなってきた。近いな……

『OKだ。行くぞリュウ』

「ああ」

草むらから躍り出てM16で弾をばら撒く。敵兵の後ろからガイルが出てきサバイバルナイフで敵兵の首を掻っ切って行く。そこへ俺は弾のもうないM16を投げ捨てデザートイーグルのみで走る。

「ガイル！左だ！」

「わかっている！」

ガイルに右から襲いかかって来ているヤツをイーグルで始末してガイルと背中合わせになる。

「クツ、流石に二人ではきつかったか……」
「けれど、ここでどうにかしないと無理だぞ」
「わかっている！」

右から近寄って来るヤツにはイーグルを撃ち、左からにはナイフで
応戦する。しかし、左から4人、右から2人は

「シャレにならん……」
「リュウ！後だ！」
「なっ！？」

右へ体を捌きながら相手の頭にイーグルを密着させる。

「甘いぞ？」

引き金を引き頭を撃ち抜いた。

「ふう……どうにかなったな……」
「ああ、しかし、まだ見られてるような感じがする……」

ダダダダッ！！

「ぐあー！」
「おい！リュウ！大丈夫か！？」

撃たれたんだから大丈夫な訳ねえだろうが……

「うう………」
「ここは……？」

「リュウ！大丈夫……か？」

ぐう……体がまだ言う事を聞かねえか。

「すまないが、ガイル起こし……ん？んん？」

「待て。状況が読めん……とりあえず医者を呼んでくる……鏡を見ておけ」

「ん？ああ、わかつ……ぎいやあああああああああああ
あ！！」

何コレ！？なんで女！？しかも美人！？

「タチバナさん！意識を取り戻しましたか！」

「おい！なんで俺は女になってるんだ！」

「はい。一から説明します。まず、貴方がここへ運び込まれた時の状態が上半身は殆ど無傷だったのですが……」

ここで何故間を開ける！？

「下半身の方が悲惨な事になっておりまして……相手の弾を跳んで避けたんですか？」

「ああ」

「恐らく、その時に上半身に当たるはずだった弾が下半身に当たったのでしよう。そのせいで男としての機能がすべてお釈迦になっておりまして、さらに出血多量。この状態でガイルさんがここに運び込んできたのです」

「それと俺の体の文化は何が関係あるんだ？」

「はい。現在の医療技術でも、あそこまでボロボロの状態を復元するのは無理があったんです。そこで急遽政府側から送られてきていた。まだ開発段階の薬を使って貴方を助けました」

「その薬が原因なのか？」
「そうです。開発段階の薬だったのですがガイルさんに『何を使ってもいいからコイツを助けてくれ！』って言われまして使った結果でこのような事になってしまい、本当に申し訳ございません」

謝られても困るのだが……

「いや、もう過ぎた事だ。助けてもらったんだ。ありがとう」

なんで顔を赤くするんだ？ガイルもかよ

「どうかしたか？ガイル」

「いや、何でもない／＼」

「ん？熱でもあるのか？」

「や、やめる。リュウ！」

「なんだ？」

「お前は国に帰れ」

「なんでだよ！」

「すまん。お前を見てると襲いたくなる」

え？なんで？俺だぞ？

「俺は男だぞ？」

「今は女だ」

「ぐっ……しかし！」

「帰れ」

「むう……わかった」

「わかつちやつたんだ!？」

「医者、うるさいぞ」

しやあない。あとはガイルに任せて帰るしかないだろうな……

主人公としてこれでいいのだろうか？

(後書き)

なんか思いたたつたら行動だと思ったので投稿しました
後悔はしてない！

連載の方もよろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8517p/>

とある戦場にて、トラブルが発生しました

2011年1月9日05時32分発行